

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3070104249
法人名	有限会社 MURO
事業所名	グループホーム 太陽のおうち
訪問調査日	平成21年 10月 2日
評価確定日	平成21年 10月 21日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104249		
法人名	有限会社 MURO		
事業所名	グループホーム 太陽のおうち		
所在地	和歌山県和歌山市山口西385-1 (電話) 073-461-6522		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成21年10月2日	評価確定日	平成21年10月21日

【情報提供票より】(平成21年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年9月14日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.11 歳	最低	66 歳	最高	84 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森医院	なかにし歯科医院
---------	-----	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

人々との交流や地域の社会資源すべてを含めた「一緒にいるのが楽しいよ」という理念に基づき、「その人らしく暮らす」ことを重視した事業所である。全職員が自分が担当する9名の入居者の介護計画を全て把握しており、日々その人にとって必要なケアを行っている。入居者は職員の“家族”のような気持ちのこもった温かいケアにより、ゆったりとした時間を過ごせている。事業所の開設時に自治会と十分な話し合いがなされており、地域住民と共に助け合う関係が築かれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「運営推進会議へ市職員の参加を呼び掛けること」と「同業者との交流」が期待したい内容に挙げられていた。運営推進会議への市職員の参加は、積極的に働きかけているが実施には至っていない。「同業者との交流」については、他事業所の職員の実地研修の受け入れを行っており、それを通じた交流がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を振り返りの材料とし、日々のケアに生かすよう努力している。今回の自己評価は運営者とすべての職員が関わり作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2カ月に1回開催されており、自治会長、地域包括支援センターの職員、家族の代表、施設長、計画作成者が参加している。会議は事業所からの報告にとどまらず、参加者から活発な意見が出され運営に反映できるようそれぞれに検討している。市職員には働きかけているが参加には繋がりにくい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問が多いので意見を聞く機会も多い。家族から出された意見や要望は十分に検討して、有意義な要望は取り入れ、入居者の思いや状況にふさわしくない内容であれば、家族に理解してもらえるように十分説明して対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出時に挨拶を交わしたり、地域での行事へ一緒に参加するなど地域のなかで自然な交流が行われるよう取り組まれている。また地域住民に地域密着型サービスについての理解を深めてもらうなどの働きかけも積極的に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく暮らす」という意味と、「地域とつながりを保ちながら暮らす」という二つの意味を含めた「一緒にいるのが楽しいよ」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も事業所の理念を良く理解し、入居者と同じ時間を共有する中でその都度必要に応じて理念を確認しあっている。家族との対話や地域の住民との挨拶も理念の実践ととらえて実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時に地域住民と十分な話し合いがなされ、地域との交流の大切さを理解してもらっていて、挨拶は必ずしている。近くの寺院の初午会での餅投げに入居者も参加しやすいように配慮してくれたり、1人で出歩いた時には連絡をくれるなど、地域の仲間として受け入れてくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が作成した自己評価をもとに、全職員が全ての項目に目を通して自由に意見を述べており、全職員が関わっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催しており、家族は2名参加しているが本人は参加していない。自治会や地域包括支援センターの職員も参加し、積極的な意見が出されている。出された意見はそれぞれに活用できるよう検討している。		本人主体のホームをよりアピールできるよい機会となるように、本人が、お茶を出すなどの役わりなどを持ちながら自然な形で会議に参加でき、少しでも本人の言葉を参加者に聞いてもらえることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員には運営推進会議への出席を要望し働きかけている以外にも、サービスの質の向上に向けた意見交換ができるよう積極的に働きかけているが、実現はできていない。		市職員との意見交換は、入居者がその人らしく暮らしていく上で重要である。行政が現場を知る良い機会にもなり、今後も継続して働きかけていくことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子は中心となる家族に密に連絡している。報告は毎月1回、計画作成者からの文書や「太陽のおうち」と題した新聞で行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問は月1回以上あり、訪問時に積極的に意見を聞くようにしている。家族から出された意見は事業所内で話し合い、本人にとって1番良いケアを家族と職員で考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員のメンタルケアを常に心がけ意欲を引き出せるように声かけをし、また有給休暇の活用も奨励するなど、離職を防ぐ環境に配慮している。職員の離職の際は、入居者に不安を与えないように配慮し「さようなら」は言わないで、来訪できる関係を築いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正確な記録・伝達の徹底、各種マニュアルの理解、定期的な自己評価、研修計画に沿った介護・医療の内部研修などを継続して行い、常に職員の資質の向上を目指している。外部研修も積極的に奨励している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の他事業所の見学を行ったり、他事業所の職員の見学や実習生の受け入れを通じて交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。運営者は県下の地域密着型サービスのネットワークのなかでもケアの向上に力を注いでおり、同業者間での積極的な意見交換がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始に際しては、何回か事業所に遊びに来てもらい十分に馴染んでから利用してもらうようにしている。家族からの希望が強くても、本人が納得するまでは利用は開始しないようにしており、家族にも理解が得られるように十分説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はケアをする専門家としての視点を保ちつつも、入居者とは「共に生活する家族のような関係」を築いている。職員が疲れているように見えたら入居者から体調を気遣う言葉をかけてくれるなど、共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初めに本人に関する情報を十分に聞き取り、足りない情報は職員が本人のこれまでを知る人を探して聞くなど、各人の思いの把握に努めている。家族や職員からの情報を全職員で共有しながら、その時々本人の意向を尊重している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画は職員全員が情報を提供し合って作成し、共有して日々のケアに活かしている。情報の記録には「センター方式」も取り入れ、より良いケアが行えるように取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しをしている。入居者の状態に変化があった時や、家族との対話の中で新しい気づきがあれば計画を見直し、よりその人らしく生活ができるような計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所で講師を招いて開催する絵手紙の時間に、地域の人や他事業所の職員も参加したり、地域の民謡の教室や「よさこい」の披露に会場を提供したりと地域に開放された事業所である。また、知り合いの美容師が毎月ボランティアで出張してくれ、地域と繋がった多機能性を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の意向を尊重している。定期的な受診は原則家族で行うが、急変時は事業所が受診支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス開始時には本人や家族の希望を聞き、状態が変化した時には、家族と相談して方針を決めている。終末期でも入居を望む家族が多く、医療についての研修も定期的に行っており、全スタッフが適切な対応ができるように取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけには本人が気に入っている呼称で呼ぶようにしている。玄関から室内が見える居室にはのれんをかけ、プライバシーに配慮している。記録等は事務所で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの介護計画は全職員が把握している。計画に基づき、一人ひとりに合ったその日のケアを日勤のリーダーが決め、実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは入居者と1週間分を作り、買い物は隔日に行ける人と一緒に出かける。食事作りや後片付けなどもできる人が職員と一緒に楽しくながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴したい時に入ってもらいが、夕食の前後を望む人が多い。浴室にリフトの設置はなく家庭的に作られている。状況に合わせて、足浴をしたり、お気に入りの入浴剤を用意して入浴を促すなどの工夫がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	シーツを畳んだり、新聞を切ったり、手芸やピアノなど一人ひとりの能力に合わせた支援を行っている。園芸の趣味のある人には草花の手入れを手伝ってもらっている。家族が提供してくれる花をみんなで活けることもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、おやつを持って散歩をしたり、車イスでホームの周りへ出たり、買い物に出かけるなど一人ひとりに合わせた支援を行っている。最近では外出先がやや固定されてきているところもあるので、行き先や頻度をみて遠出も行えるように検討している。		入居者の希望も取り入れながら、新しい外出先や遠出の実現に期待する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が理解している。玄関に鍵はかけられておらず、自由に外出できる。センサーなども設置はしていない。一人で無断で外出しても、地域の方が声をかけてくれるため問題なく過ごせている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回、日中や夜間を想定して実施している。非常時には支援が受けられるように、自治会とも契約をしている。飲み物、カンパンなど食料品の他、マスクや消毒液、毛布など衛生面も含めた備蓄を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、全職員が把握している。食事のメニューは入居者とともに作るが、管理栄養士も加わって栄養面に配慮している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井は吹き抜けで開放感があり、窓が大きく作られているため戸外の風景から四季が感じられる。照明は適度な落ち着いた明るさにし、憩える工夫が随所に見られる。ところどころに季節の花が飾られ、人形などの置物も多いが、掃除が行き届き清潔に保たれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は空間を提供するという視点から、クローゼットやベッドといったものは事業所からは提供せず、入居者一人ひとりのなじみの物を置いてもらっている。部屋を間違えやすい人には居室の入口にのれんをつけるなどの工夫をしている。		